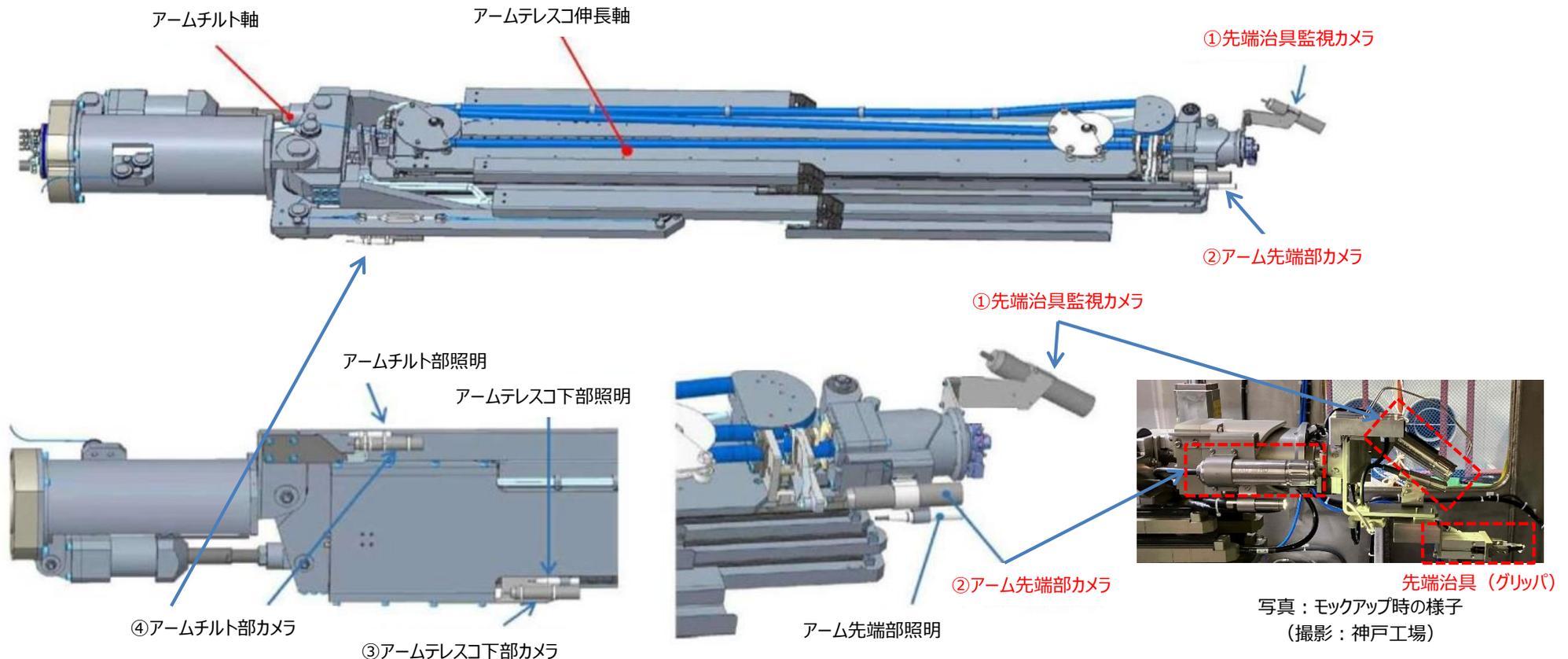


- 2号機燃料デブリの試験的取り出し作業について、把持作業の準備として、9月17日に原子炉格納容器内の状況確認やテレスコ式装置の動作確認等を行ったところ、何らかの原因により、装置先端のカメラ映像（①先端治具監視カメラ、②アーム先端部カメラ）が遠隔操作室内のモニターに適切に送られてこないことが確認されました。
- 現在、原因調査を実施しています。現時点における調査状況をお知らせします。

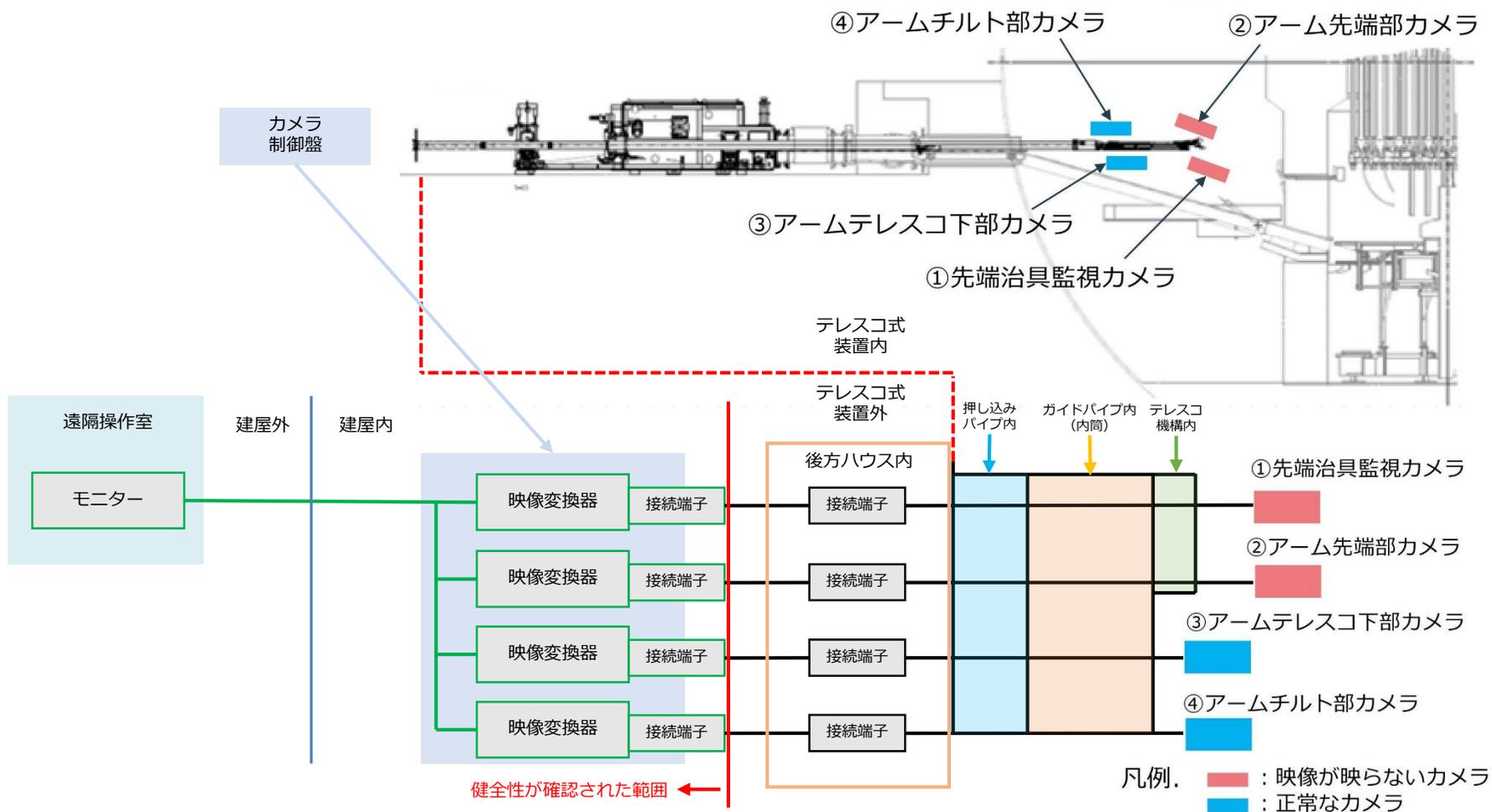


写真：モックアップ時の様子
(撮影：神戸工場)

テレスコ式装置のカメラ設置状況

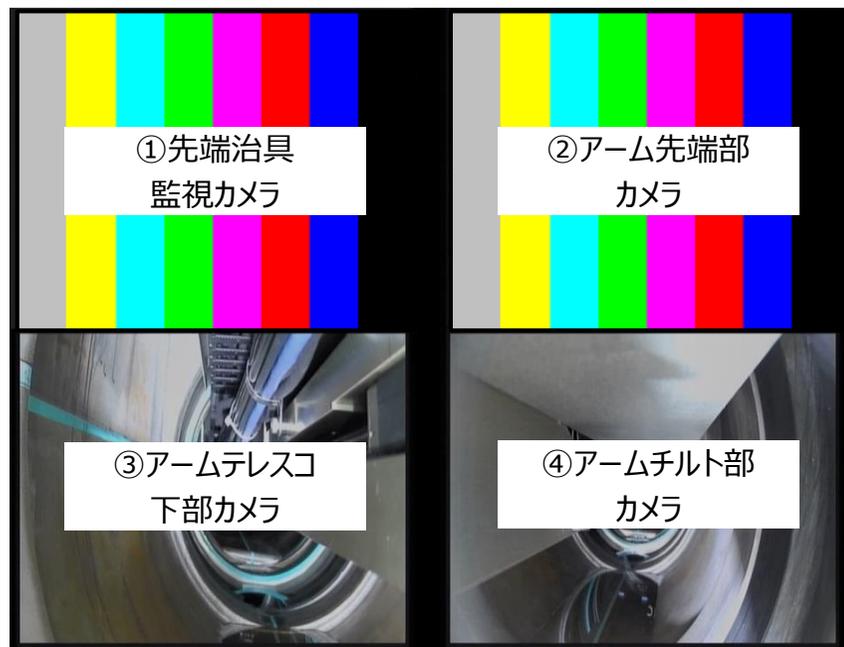
これまでの調査状況

- 本事案の確認後、原因特定に向け、これまでに遠隔操作室ならびに原子炉建屋内のテレスコ式装置において、カメラケーブル、各接続端子、映像変換器の外観および信号確認、絶縁抵抗の測定等を実施しています。
- 今後、さらに、①先端治具監視カメラおよび②アーム先端部カメラの映像信号の状態について、計器による調査を実施する予定です。

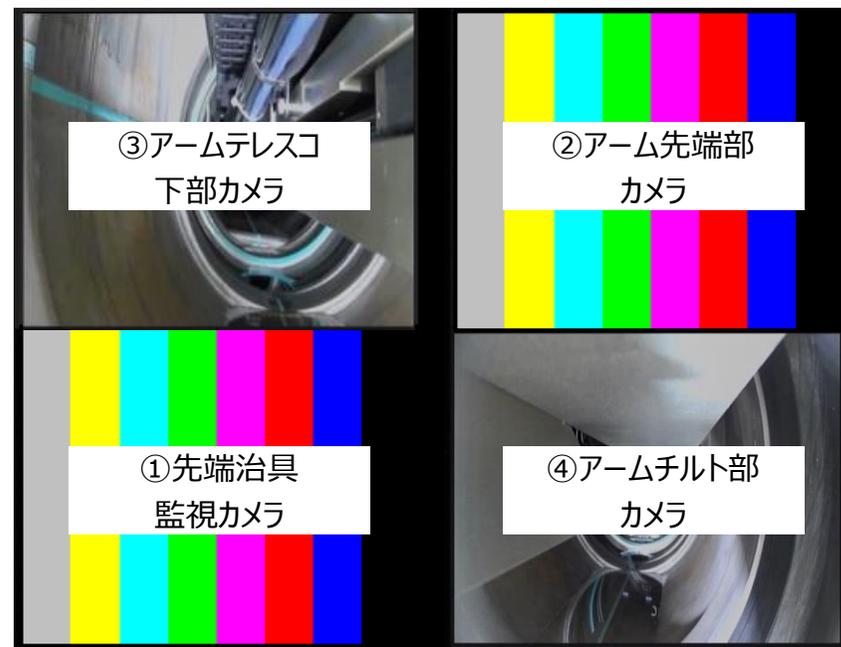


映像変換器および光ファイバーケーブルの健全性確認

- 9月17日、テレスコ部に4つあるカメラのうち、①②カメラについては、遠隔操作室内のモニターにカラーバーが表示されている状態でした。
- カメラ映像は、原子炉建屋内に設置している映像変換器から、遠隔操作室までは光ファイバーケーブル（有線）で伝送しています。調査の一環として、原子炉建屋内の制御盤内で、4組のカメラケーブルと映像変換器の接続の組み合わせ変更を実施しました。
- 4つあるカメラとそれぞれに接続されている映像変換器の接続の組み合わせ変更の結果、入れ替えたモニターにカラーバー表示が移行することを確認（以下、①⇔③を入れ替えたイメージ画像）しており、原子炉建屋内の制御盤より遠隔操作室側の状態に問題はないと考えています。



映像変換器の接続の組み換え前（イメージ画像）



映像変換器の接続の組み換え後（イメージ画像）